スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

【熊本県玉名市】
令和５年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）

自治体名	熊本県玉名市
担当課名	スポーツ振興課
電話番号	0968-75-1129

1．自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

人口	63.550人(R5.11)	部活動数	52部活
公立中学校数	６校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校生徒数	1561人(R5.4月現在)	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

◆部活動の現状

・玉名市の中学生の運動部活動加入率は60%で、バドミントン、陸上、ソフトテニスの個人種目への加入者が約半数となっている。団体種目においては単一校での大会参加が困難な状況が続いている。

・競技経験のある教員が担当している部活動は57%、競技経験のない教員が外部指導者に頼って担当している部活動が32%、競技経験のない教員が担当し外部指導者の配置もない部活動が11%ある。（右図）

・部活動指導員3人、外部指導者49人が、配置されているが平日に指導ができる指導者は少数である。

・教員の約半数が５０代、６０代で、高齢化が進んでいる。

◆部活動の課題

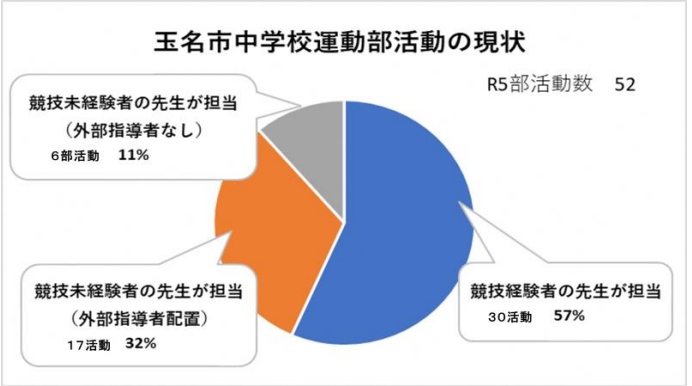
・団体種目においては、単一校でのチーム編成が困難で毎年合同部活動編成に苦慮している。

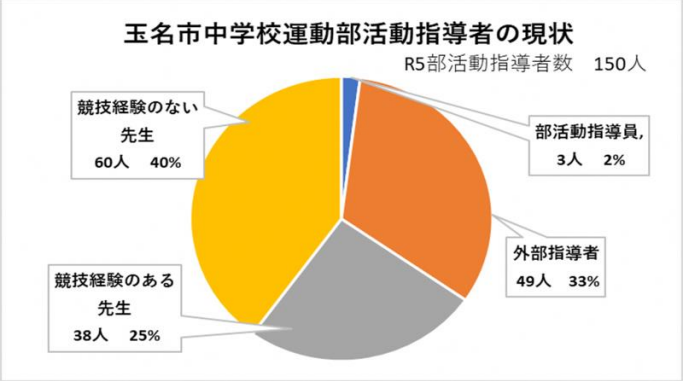
・部活動の廃部等で、生徒がやりたい種目が学校にない状況がみられる。

・クラブチームに所属する生徒が増え、部活動加入率も低下傾向にある。

・部活動指導を希望する教員は全体の32%と低く、部活動を負担に感じる教員が多数いる。

・外部指導者が不足し、専門的な指導ができていない部も多い。

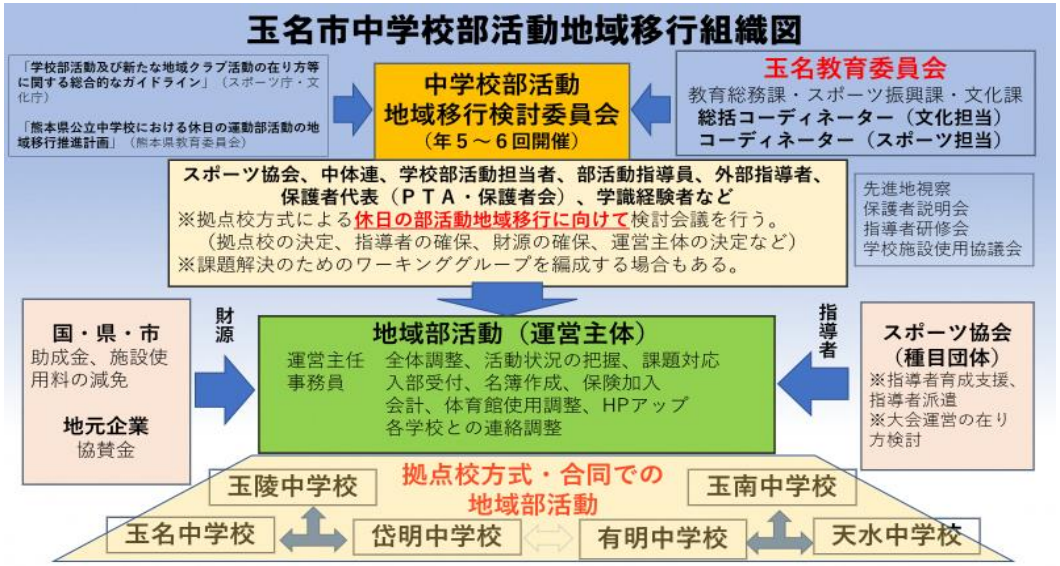




2．実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

- **教育総務課（学校教育）**
  - **総括コーディネーター**（兼文化部活動担当）１名
    - 検討委員会（案内、進行、まとめ）
    - 文化部活動地域移行計画立案
    - 小学校放課後スポーツ教室
- **スポーツ振興課（社会教育）**
  - **コーディネーター**（運動部活動担当）１名
    - 運動部活動地域移行立案、地域部活動（玉名モデル）
    - いだてん玉名SC、スポーツ協会等連絡調整
  - **会計年度職員** １名
    - 地域部活動　名簿管理、指導者謝金支払、保険対応等

年間の事業スケジュール

第１回中学校部活動地域移行検討委員会（5/9）委嘱状交付、運営体制について、今後の事業スケジュール確認
　先進地視察研修　長崎県長与町教育委員会（5/24）地域クラブ運営体制についての協議
第２回中学校部活動地域移行検討委員会（6/7）地域部活動についての協議会（ワークショップ形式での協議）、意見交換
第３回中学校部活動地域移行検討委員会（7/19）地域部活動「玉名モデル」について説明
　玉名市内中学校教職員説明会、地区別保護者説明会、地域部活動指導者研修会及び説明会、各地域部活動説明会
　　※条件が整ったところから地域部活動「玉名モデル」がスタート（10/7～）12月までに９部活動が地域へ移行した
　部活動地域移行啓発講演会（10/19）講師：長崎県長与町教育長　金﨑良一氏　演題：「学校部活動から地域スポーツ活動への移行！」
第４回中学校部活動地域移行検討委員会（12/13）地域部活動進捗状況、次年度の地域部活動募集について
　地域部活動指導者研修会及び協議会(2/9）講師：九州看護福祉大学准教授　平﨑和雄氏　演題：「スポーツ障害について」 年間反省・意見交換会
第５回中学校部活動地域移行検討委員会（3/15）本年度の取組状況・年間反省、次年度の地域部活動移行予定、今後の方向性の確認

2．実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

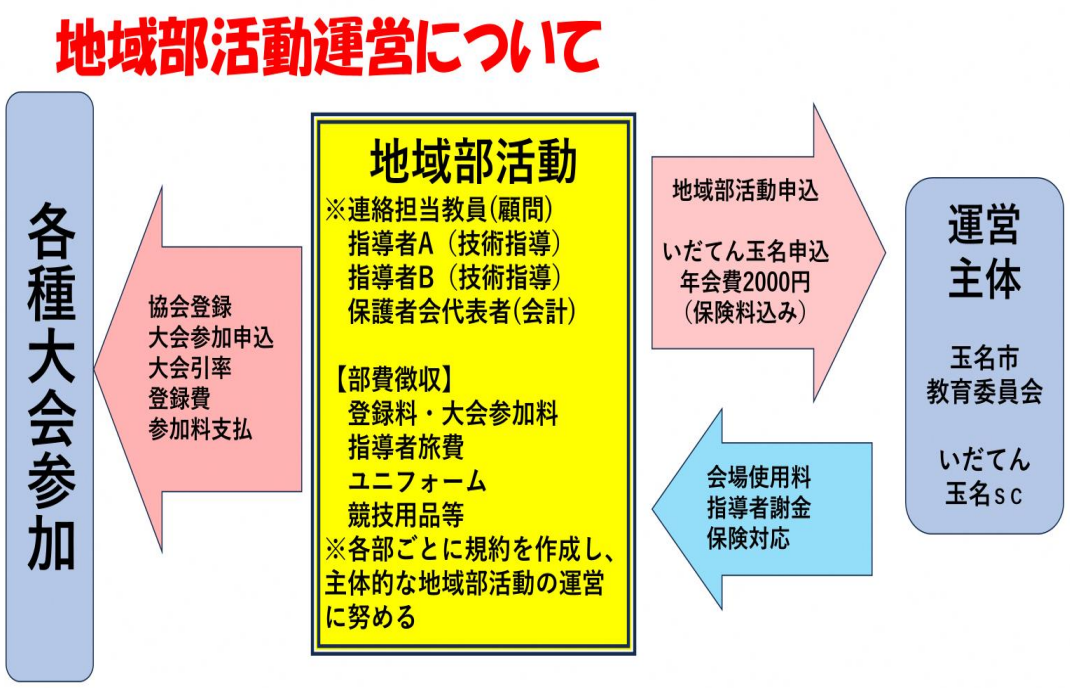
拠点校数	４校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	男子バレーボール、女子バレーボール、柔道、剣道、卓球、ラグビー
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	９部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	玉名中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	２部活
地域クラブ活動で実施した種目	男子バレーボール 女子バレーボール
運営主体名	玉名市教育委員会・NPO法人いだてん玉名SC
運営類型	地域スポーツ団体等運営型 （総合型地域スポーツクラブ運営型）
１か月あたりの平均的な活動回数	月４回程度
指導者の主な属性	男子バレーボール部：教師 女子バレーボール部：会社員
活動場所	玉名中学校体育館
主な移動手段	自転車、保護者送迎
１人あたりの参加会費等（年額）	男子　24000円/年 女子　12000円/年
１人あたりの保険料	CHUBB保険 （総合型地域スポーツクラブ専用補償プラン） いだてん玉名SC年会費（2000円）に含む

▼運営体制図（地域部活動を実施する際の運営体制図）



2．実証内容と成果

取組内容

▼取組項目名：ア．関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

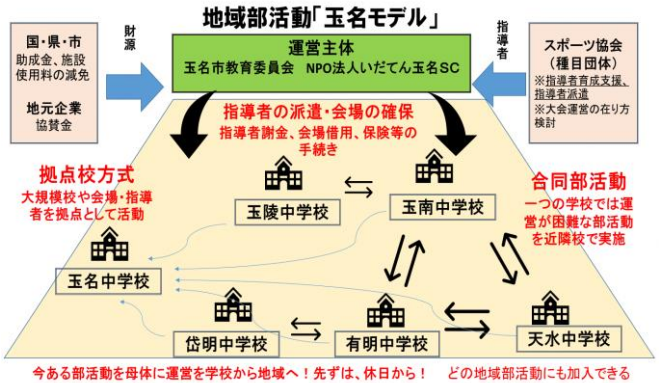
取組事項

総括コーディネーター１名を配置し協議会を行い、コーディネーター１名を配置し関係団体と中学校との連絡調整を行う。
また、会計年度職員を配置し、関係団体と中学校との連絡調整及び事務処理補佐を行う。

取組の成果

年間５回の検討委員会を開催し、部活動の抱える課題解決の方策として、大規模校や指導者を中心とした拠点校方式や、単一校では運営困難な部活動同士での合同部活動方式を取り入れた地域部活動「玉名モデル」（右図）を検討することができた。また、長崎県長与町の取組をモデルとし、５月に検討委員での先進地視察、１０月には長与町金﨑教育長を講師に保護者啓発講演会を開催した。

令和５年度後期からの地域部活動スタートに向け、校長説明、保護者啓発チラシ作成、教職員・保護者・指導者説明会を経て、９部活動（種目：バレーボール5、卓球1、柔道1、剣道1、ラグビー1）を地域移行することができた。



特に工夫した事項

コーディネーター、担当指導主事等による事務局会議を月１～２回開催し、学校部活動の課題解決につながる具体的な提案事項の検討を行った。

また、種目別担当者会、総合型地域スポーツクラブいだてん玉名SCとの協議、部活動会計担当者会議、各部保護者説明会など地域部活動「玉名モデル」実施のための会議を重ねた。さらに、生徒・保護者向けチラシ配布、玉名市ホームページや広報にも地域部活動「玉名モデル」の啓発資料を掲載し、理解を求めた。（右図）



今後の課題と対応方針

玉名市としては、「令和７年度からすべての休日の部活動を地域部活動へ移行する」という方針を、教職員・保護者等へ周知し、スムーズな地域移行ができるよう準備を進めている。また、学校部活動とクラブチームが一堂に参加できる大会や教員の引率を必要としない大会など、新たに立ち上がった地域クラブの生徒が安心して成果発表のできる場づくりをスポーツ協会と連携して取り組みたい。

2．実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

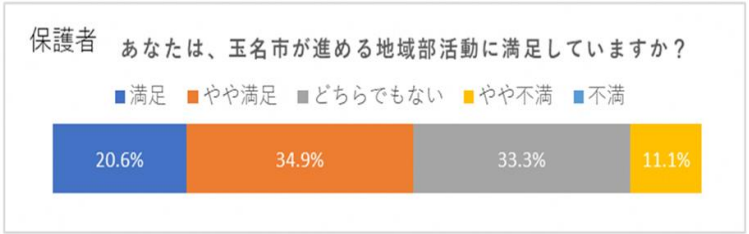
取組事項

生徒の志向や体力等の状況に適したスポーツに親しむ機会の確保に取り組むために、スポーツバイキング、地域部活動等を総合型地域スポーツクラブ（いだてん玉名）へ委託する。

取組の成果

休日の部活動を、条件が整ったところから拠点校方式や合同部活動方式による地域部活動として実施した。地域部活動に参加した中学生108人を対象とした生徒アンケート（回答率46%）の結果では、回答者の78%が「地域部活動に満足している」と答えた。 また、回答した教員の全員が今後も地域部活動を継続してほしいと回答しており、教員の負担軽減につながっている。一方、保護者アンケート（回答率59%）では、55%が「地域部活動に満足している」と答えているものの、33%は「どちらでもない」と回答しており、地域部活動への理解が不十分といった課題も明確になった。





特に工夫した事項

教育委員会・いだてん玉名SCが主催するスポーツバイキング（2/23：参加者145名）において、小学生高学年向け中学校部活動体験教室（バレーボール、バドミントン、ソフトテニス、卓球、ラグビー）を実施した。各種目団体の協力を得ながら地域部活動の指導者を中心に、1 時間ごとに種目を入れ替わりながら、いろいろなスポーツに触れることができた。（右写真）



今後の課題と対応方針

中学校の部活動地域移行は、中学校だけの問題ではなく、小学生も含めた玉名市内すべての子供たちがやりたいスポーツに安心して取り組むことができる環境づくりを大人の責任で行うことを最終目標としている。今後、学校部活動にない小中学生の興味関心の高い種目をスポーツバイキングに取り入れ、多くの子供たちが運動に親しむ環境づくりを行いたい。

2．実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：ク：その他の取組

取組事項

学校施設・設備・備品等を使用して、地域スポーツクラブ活動を実施する際の利用ルールを策定する。

取組の成果

令和５年１０月からの地域部活動スタートに向け、学校施設及び社会体育施設の借用等に関して以下の内容を協議・確認した。

〇地域部活動も学校部活動と同様に、学校体育施設は無償、社会体育施設は減免とする。

〇休日の体育館の開閉は、リモートロック（まちかぎリモート）で行う。（右図）

〇学校体育施設の予約は、学校側で予約し、地域指導者に連絡する。

〇社会体育施設は、地域部活動指導者が予約し、支払いはいだてん玉名SCが行う。

〇用具等の保管場所・管理方法については、学校側と相談する。



特に工夫した事項

玉名市では、すべての学校体育館が令和４年４月から「まちかぎリモート」で管理されている。予約はインターネット（右図）、施設の開閉はリモートロックとなっているため、地域部活動指導者が暗証番号で体育施設の開閉ができる。管理職や担当教員不在でも体育施設の使用ができるため、教員の負担軽減につながっている。

また、社会体育施設の借用については、指定管理者へ地域部活動の趣旨説明を行い、学校部活動と同様に借用ができるようになった。



今後の課題と対応方針

学校体育施設の予約は「まちかぎリモート」で優先的に予約できるが、社会体育施設については指定管理者が施設ごとに異なるため、対応が統一されていない。今後、地域部活動の指導者と社会体育施設管理者との協議会を開催し、課題解決のための方策を検討する必要がある。

また、小学校体育施設の借用や備品・用具の保管など小学校側との十分な協議が必要である。

2．実証内容と成果

スポーツ庁

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

学校部活動と地域部活動と民間スポーツクラブ

月	火	水	木	金	土	日

①学校部活動（学校教育活動内）
平日の放課後のみ、大会参加なし

※週当たり1日以上の休養日。長期休業中はオフシーズンを設ける。
練習時間は2時間程度。
大会への参加なし。

②地域部活動
（学校教育活動外）
大会等参加、競技志向等

※原則として1日を休養日とし、休日に大会参加等で活動した場合は、休養日を他の休日に振り替える。練習時間は3時間程度。定期テスト前後の一定期間の休養日を設定する。

学校部活動も地域部活動も「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」に沿った活動内容であることが条件！

③民間スポーツクラブ（学校教育活動外）
平日(夜：練習)・休日(昼：練習・大会参加)　クラブカップ大会参加　競技志向

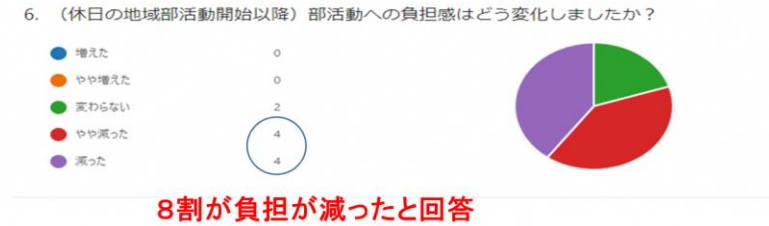
「学校部活動」と「地域部活動」の違い

	学校部活動 ※R7から平日のみ実施！	地域部活動 ※R7からすべての部活動を地域へ
運営主体	各中学校 （学校教育内活動）	教育委員会・いだてん玉名SC （学校教育活動外活動）
指導者	教職員　部活動指導員 外部指導者	いだてん玉名SC指導者 教職員の兼職兼業許可
大会参加 手続き・引率	教職員　部活動指導員 （外部指導者はベンチ入りのみ） R7年度からは、大会参加なし！	いだてん玉名SC指導者 （指導者・保護者会） ※連絡担当教師のサポート
保　険	日本スポーツ振興センター 窓口：養護教諭	総合型地域スポーツクラブ保険 窓口：いだてん玉名SC
中体連 への参加	地区予選会から参加可能	自治体主導で立ち上がったクラブは、地区予選に参加できる！ 地域部活動としての参加！

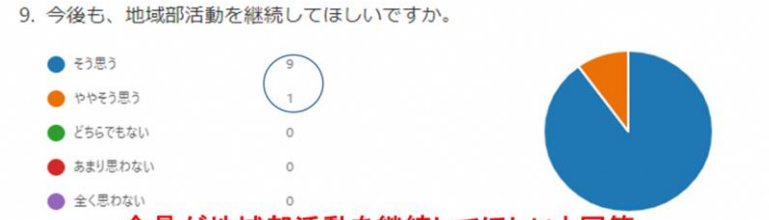
【検討委員会で提案した地域部活動のイメージ】

教師

回答率
66%

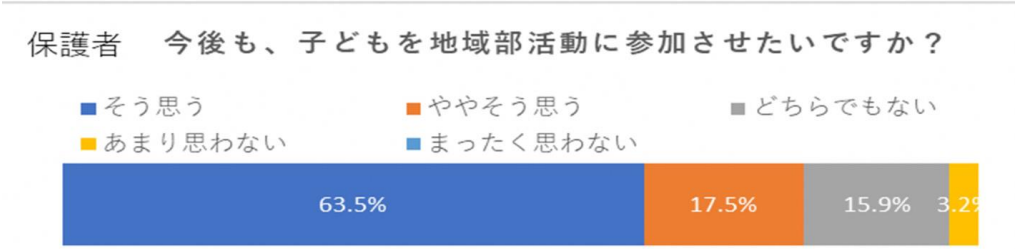


8割が負担が減ったと回答



全員が地域部活動を継続してほしいと回答





【地域部活動参加者108名を対象としたアンケート結果】

2．実証内容と成果

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【第１回玉名市立中学校部活動地域移行検討委員会】 スポーツ協会、文化協会、中学校長会、総合型地域スポーツクラブなど関係団体より選出された委員に委嘱状が渡された。2023.5.9　玉名市総合体育館会議室にて



【中学校地域移行啓発講演会】 長崎県長与町教育長金﨑良一氏を講師に講演会を開催した。 演題「学校部活動から地域スポーツ活動への移行！」
2023.10.19　玉名市民会館マルチホールにて　 約80名の参加



【岱明地区保護者説明会】　 玉名市教育委員会としての部活動地域移行基本方針と地域部活動「玉名モデル」の具体的な内容を関係保護者に説明した。 2023.8.17（岱明防災コミュニティーセンター） 39名参加



【中学校部活動地域移行コーディネーター及び担当者研修会】 熊本県内市町村の担当者が集まる中、地域部活動「玉名モデル」の実践発表を行った。
2023.11.21　熊本県水前寺共済会館にて　約70名の参加

2．実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【熊本県中学生ビギナーバレーボール大会】 玉名中学校女子バレーボール部が初心者を中心としたチームで、地域部活動指導者が引率し試合に出場した。
2023.12.23　玉名市総合体育館にて



【地域部活動指導者研修会】 九州看護福祉大学准教授平﨑和雄氏による講話「スポーツ障害の予防について」を開催した。
2024.2.9　玉名市総合体育館会議室にて



【熊本県新人バレーボール大会】 玉名中学校男子バレーボール部が地域部活動として初めて県大会に出場し、玉名中学校以外の生徒も参加した。
2024.1.20　熊本市内中学校体育館にて



【スポーツバイキングの開催】 地域部活動者による小学生高学年向け中学校部活動体験教室を開催した。（バレーボール、卓球、バドミントン、ソフトテニス、ラグビー）　2024.2.24　玉名市総合体育館にて

2．実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和４年
検討委員会開始
教職員・保護者・
生徒アンケート実施

令和５年
総括コーディネーター及び
コーディネーター配置
検討委員会の開催

先進地視察研修
拠点校方式・合同部活
動方式による実証事業
説明会の開催

令和６年
地域部活動（玉名
モデル）９部がス
タート

玉名市内中学校運動
部活動の６～８割を
地域部活動へ移行

令和７年
すべての休日の運動部
活動を地域部活動へ
移行

令和４年度実施内容

●教育委員会
・検討委員会(3回)
・座談会(3回)
・アンケート実施
　中学校教職員
　小5･6年
　中1･2年
　保護者
●スポーツ協会
・部活動地域移行
　啓発講演会開催
・情報交換会
●課題
・部員・指導者不足
・大会出場が困難
・教師の負担大
・財源不足
・保護者送迎

令和５年度実施内容

●教育委員会（コーディネーター２名配置）
・検討委員会(5回)開催　5･6･7･12･3月　委員18名委嘱
・先進地視察（長崎県長与町）5月　　検討委員会メンバー10名
・保護者・一般向け啓発講演会（長与町金﨑教育長）10月
●合意形成に至るまでの経過
・地域部活動（玉名モデル提案）6月　　拠点校方式・合同部活動方式
・校長会・各学校教職員説明会、啓発チラシ配布　7月
・地域部活動　全体保護者説明会　8月（横島地区、岱明地区）
・NPO法人いだてん玉名SCへの委託契約
・地域部活動指導者説明会　8月　契約方法についての説明
・各部保護者説明会(7回)9～10月
・合意形成できたところから地域部活動スタート（10/7～10/31）
　９部（バレーボール5、柔道1、剣道1、卓球1、ラグビー1）
　いだてん玉名SC会員として活動（部員108名、指導者18名）
●実施にあたって生じた課題
・練習場所の確保、大会参加手続きの役割の明確化
・大会参加受け入れ体制（教員以外の引率に制限があり）
・中体連大会への参加基準があいまい
・活動実績に応じた謝金支払いができていない

これまで実績および今後の予定

●Keep
・部員不足の解消につながった
・やりたい部活動ができた
・教師の負担減につながった
・専門的な指導ができた
・他校との交流ができた
●Problem
・保護者の送迎
・指導者の不足
・休日の活動日数不足
●Try
・充実した指導者研修会の開催
・保護者説明会
・地域部活動の啓発活動
・種目団体との協議会の開催
・スポンサー確保
●次年度に向けて
・６～８割を地域部活動へ移行

3．今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

「地域部活動」玉名モデルのこれから

学校部活動の地域移行推進期間（R５～R7）

R5年度

□体制が整ったところから、休日の運動部活動を地域部活動へ移行（スポーツ庁実証事業）

R6年度

□６～８割の休日の運動部活動を地域部活動へ
□体制が整った運動部活動から平日も地域部活動へ
□文化部活動の地域移行を検討

R7年度

□すべての休日の運動部活動を地域部活動へ
□平日の運動部活動の地域移行をさらに推進
□休日の文化部活動を地域部活動へ

小学生も含めた地域部活動の充実

ジュニア期の子供たちが、レベルやニーズに応じ、多様な種目に安心して取り組めるスポーツ、文化・芸術環境づくり